



2

大正●時代小説篇

名作挿絵全集

名作挿絵全集



大正・時代小説篇

平凡社

大正・時代小説篇

名作挿絵全集 第二卷

発行日 一九八〇年三月三十一日 初版第一刷

定価 一、三〇〇円

編集・発行人 下中邦彦

発行所 株式会社平凡社

東京都千代田区四番町四番地一

郵便番号一〇二 振替東京八一二九六三九

電話 東京(〇三)二六五一〇四五(代表)

装丁 早川良雄

レイアウト 港野千穂 石川勇雄

印刷 株式会社東京印書館

製本 和田製本工業株式会社

製函 永井紙器印刷株式会社

名作挿絵全集 全10巻

1 明治篇

2 大正・時代小説篇 ☆

3 大正・現代小説篇

4 昭和戦前・少年少女篇 ☆

5 昭和戦前・時代小説篇 ☆

6 昭和戦前・現代小説篇

7 昭和戦前・戦争小説篇

8 昭和戦前・推理怪奇小説篇

9 昭和戦後・時代小説篇

10 昭和戦後・現代小説篇

(☆ 既刊)

名作挿絵全集

第二卷

目次 名作挿絵全集 第二卷 大正・時代小説篇

挿絵傑作選

I

緒崎英朋	6	●	石井滴水	10	●	井川洗厓	11	●	木村莊八	14	●	河野通勢	15	●
山村耕花	18	●	太田三郎	19	●	山川秀峰	21	●	堂本印象	22	●	名取春仙	24	●
八幡白帆	25													

「大菩薩峠」	中里介山作	26
--------	-------	----

『無明の巻』	石井鶴三画	28
--------	-------	----

『甲源一刀流の巻』	井川洗厓画	38
-----------	-------	----

『白骨の巻』	金森觀陽画	39
--------	-------	----

『恐山の巻』	矢野橋村画	40
--------	-------	----

『めいろの巻』	中村岳陵画	41
---------	-------	----

「富士に立つ影・裾野篇」	白井喬二作	
--------------	-------	--

川端龍子・木村莊八・河野通勢・山本	鼎画	42
-------------------	----	----

「項羽と劉邦」	長與善郎作・河野通勢画	51
---------	-------------	----

小田富彌 || 62 ●伊藤彦造 || 66 ●岩田専太郎 || 67 ●神保朋世 || 70 ●福岡青嵐 || 72
 ●荻谷深隍 || 73 ●伊藤幾久造 || 75 ●山口草平 || 77 ●金森觀陽 || 78 ●橘 小夢 ||
 80 ●谷 洗馬 || 82 ●近藤紫雲 || 84

「落花の舞」

前田曙山作・鰭崎英朋画

85

「鳴門秘帖」

吉川英治作・岩田専太郎画

93

「修羅八荒」

行友李風作・伊藤彦造画

101

●●●●

小説と時代 || II

講談から大衆文学へ

尾崎秀樹

110

挿絵史展望 || II

視覚時代への出発

石井富士弥

118

石井鶴三 || 想像と気魄の線描

陰里鉄郎

125

鰭崎英朋 || 写真の人

匠 秀夫

132

「幻の画家」橘 小夢

八木 昇

130

●聞き書 ●小田富彌「丹下左膳の腕」

138

大衆文化史 || II 立川文庫の世界

山本 明

141

●●執筆者紹介

145

挿絵傑作選

I

鯨崎英朋

石井滴水

井川洗屋

木村莊八

河野通勢

山村耕花

太田三郎

山川秀峰

堂本印象

名取春仙

八幡白帆

矢野橋村

中村岳陵

「緒崎英朋」

東京生まれ。本名太郎。晋司、絢堂とも号した。歌川派の右田年英、円山派の川端玉章に学び、明治三十四年、鐫木清方、山中古洞らと鳥合会を結成。単行本・雑誌の口絵や新聞小説の挿絵を描き、明治後期から大正にかけて、鐫木清方とともに美人画界の双璧をなした。弟子に神保朋世、石井朋昌らがいる。

(ひれざき・えいほう／一八八一―一九六八)



天人娘お志づ 『娯楽世界』口絵 年代不詳



意外な犯罪 『娯楽世界』口絵 年代不詳



前田曙山作「燃ゆる渦巻」後篇口絵 大正13年刊



前田曜山作「落花の舞」口絵 大正14年刊

代表作に、泉鏡花作「婦系図」、柳川春葉作「落花の舞」
「生さぬ仲」、菊池寛作「真珠夫人」、自筆自画の「うた
姿」があるが、相撲絵も得意とし、栗島狭衣「相撲評話」、
尾崎士郎の長編小説「国技館」を残している。また、明
治末から昭和十年頃まで、文部省の嘱託として国定教科
書の挿絵も描いた。



木版口絵 年代不詳 左は下絵



英朋自筆自画「うた姿」 大正5年刊



墮天女の曲 前田囃山作「燃ゆる渦巻」口絵
大正13年刊



前田囃山作「酒の下物」 「サンデー毎日」大正14年7月1日号



よそほひ 『婦女界』大正8年3月号付録「口絵十二月」下絵



「うた姿」



前田暉山作「三郷借屋」『サンデー毎日』大正13年10月1日号

石井滴水



渡辺黙禅作『砂の恋塚』『ポケット』

東京・青山生まれ。本名芳次郎。青山尋常小学校卒業後、米問屋などに奉公するかたわら絵を学び、やがて鏑木清方の門下となった。大正六年『主婦之友』創刊に際して一年間表紙絵を描き、柔らかな女性像を得意として、『文芸倶楽部』『講談倶楽部』などで活躍した。

(いしい・てきすい／一八八二—一九四五)



本田美禪作『御洒落狂女』後篇口絵 大正14年刊

『御洒落狂女』前篇口絵

『御洒落狂女』中篇口絵



井川洗厓

岐阜市生まれ。本名常三郎。富岡永洗に師事。明治三十九年都新聞社に入社、「大菩薩峠」をはじめとする新聞小説の挿絵を担当し、『講談倶楽部』『キング』などを中心に筆を揮った。挿絵専門画家の先駆者である。

(いがわ・せんがい／一八七六一一九六一)



化けた振袖 『文芸倶楽部』大正6年1月増刊号口絵



変挺来の一夜 『講談倶楽部』大正11年2月号口絵



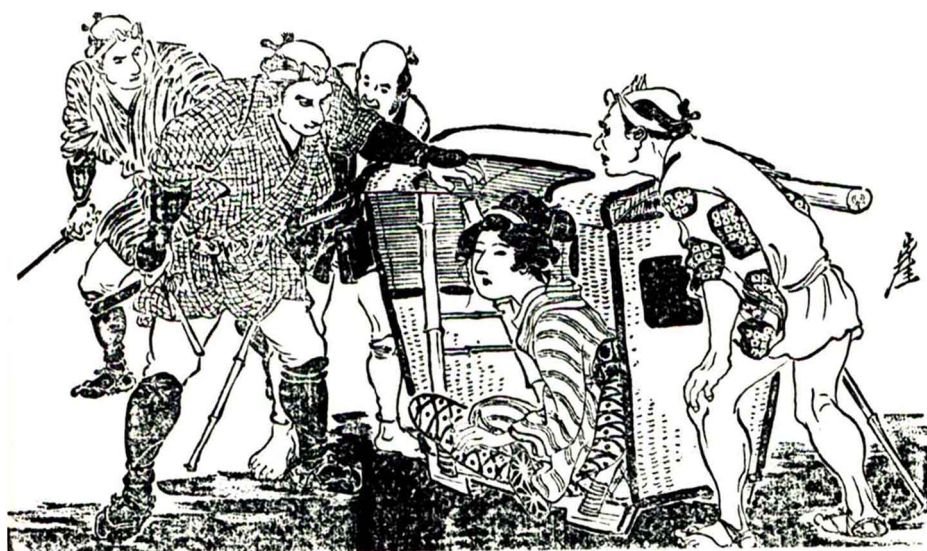
花の山駕籠 『文芸倶楽部』大正4年5月号口絵



夜鴉おかん 『娯楽世界』口絵 年代不詳



下村悦夫作「悲願千人斬」
大正14～15年「キング」連載

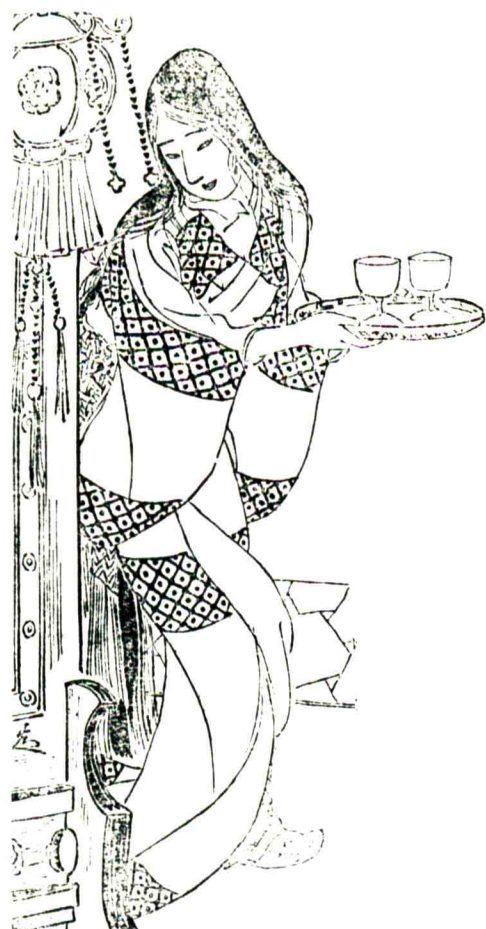


下村悦夫作「風雲奮龍組」 大正15年～昭和2年「キング」連載

明治三十九年、日露戦争から帰還した洗屋は、師永洗の跡を襲って都新聞へ入社した。同門の兄弟子松本洗耳が都にいたが、三十歳で夭折したため、洗屋が起用されたのである。以後挿絵画家として立ち、『講談倶楽部』では創刊以来、口絵、挿絵に活躍した。代表作に「大菩薩峠」「悲願千人斬」、本田美禪作「御洒落狂女」など。晩年はもっぱら美人画を描いた。



「風雲蒼龍組」



伊藤銀月作「肉饅頭」 「キング」大正14年1月号



本田美禪作「大奥心中」 「講談俱樂部」大正11年2月号